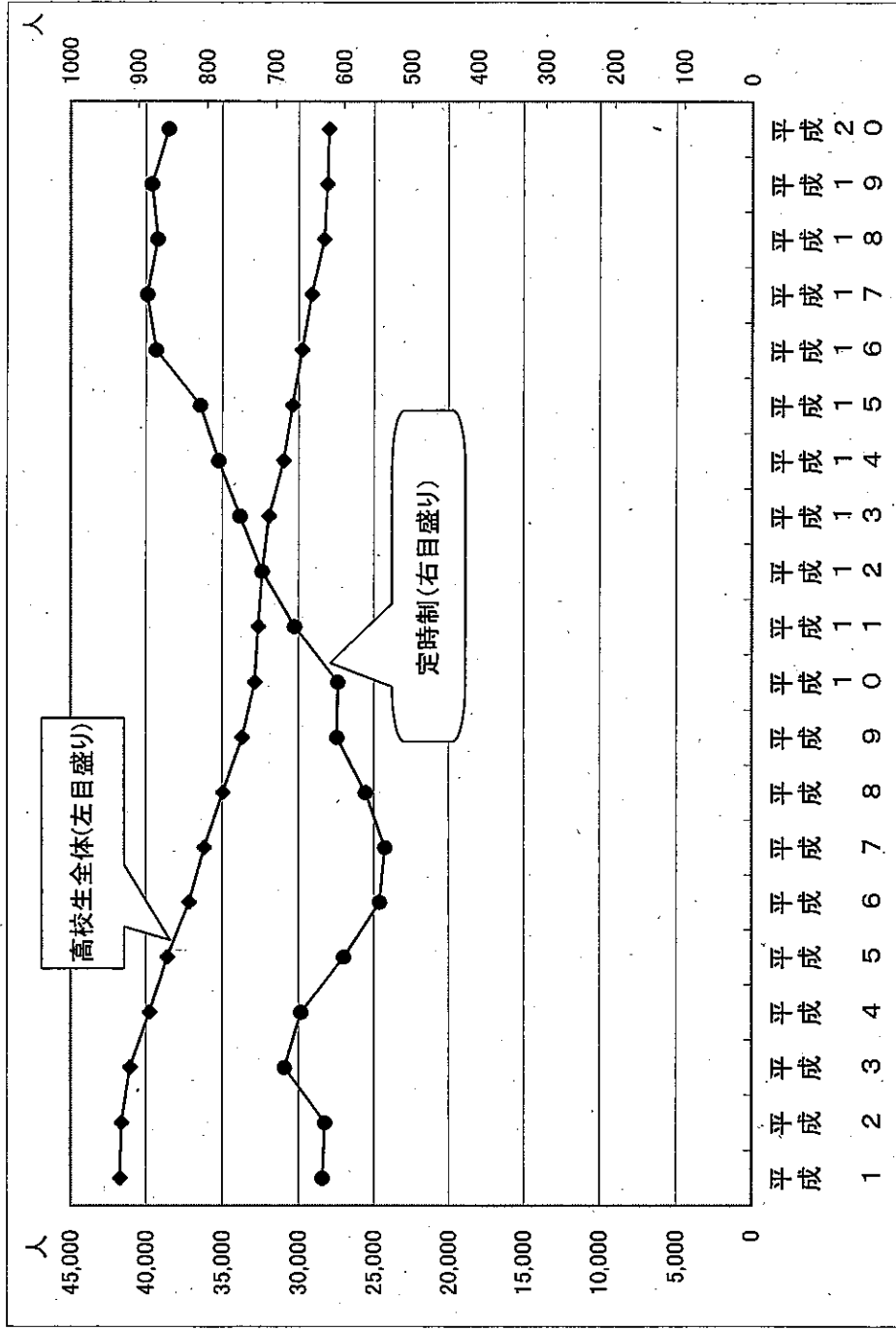


< 資 料 >

1. 県内高校生徒数及び定時制課程生徒数の推移	1
2. 定時制学校別在籍生徒数等	2
3. 昼間部・夜間部別在籍生徒数の推移	3
4. 定時制卒業者の進路状況等	4
5. H19 高校改革アンケート「定時制高校の役割」	5
6. H20 高校整備に関するアンケート「定時制高校への期待」	6
7. 三部制定時制の例	7
8. 中高一貫教育の制度	8
9. 全国の公立中高一貫教育校設置状況	9
10. H19 高校改革アンケート「中高一貫教育校」	10
11. H20 高校整備に関するアンケート「設置を希望する高校」	11
12. 山梨県中高一貫教育研究会議提言（要旨）	12
13. 新しい高校づくり課題研究協議会（抜粋）	13
14. 中高一貫教育懇話会提言（要旨）	14
15. 第2次新しい高校づくり課題研究協議会（抜粋）	15

県内高校生徒数及び定時制課程生徒数の推移

平成20年5月1日現在



年度	高校生全体	定時制
平成1	41,719	632
平成2	41,605	628
平成3	41,064	687
平成4	39,774	663
平成5	38,601	600
平成6	37,177	547
平成7	36,183	539
平成8	34,959	568
平成9	33,695	610
平成10	32,875	609
平成11	32,646	672
平成12	32,383	720
平成13	31,944	752
平成14	30,968	783
平成15	30,389	810
平成16	29,768	874
平成17	29,161	887
平成18	28,321	872
平成19	28,112	880
平成20	28,008	856

※「高校生全体」は、公立の全日制・定時制・通信制と私立の全日制の和で、専攻科は除いてあります。資料は「教育便覧」によります。

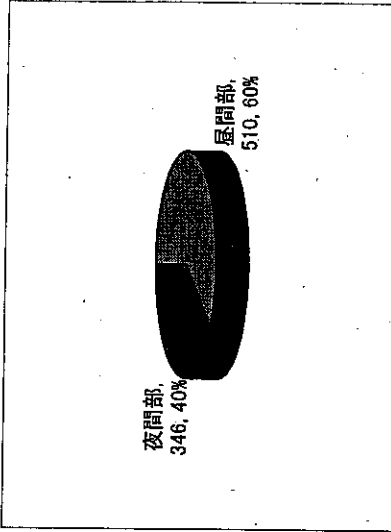
定時制学校別在籍生徒数等

(H20年5月1日現在:教育便覧)

学校名	学科	昼夜別	定員	学 年				在籍者数	在籍率 <small>在籍者数/定員×4</small>	学級数
				1学年	2学年	3学年	4学年			
中央高校	普通科	昼間部	60	58	52	40	23	173	72%	10
	情報経理科	昼間部	40	39	35	18	19	111	69%	6
ひばりが丘	普通科	昼間部	30	22	11	14	10	57	48%	4
	情報経理科	昼間部	30	17	17	8	12	54	45%	4
蕨崎高校	普通科	昼間部	40	39	32	24	20	115	71%	8
中央高校	普通科	夜間部	40	18	10	13	11	52	56%	4
	情報経理科	夜間部	40	8	10	8	4	30	44%	3
ひばりが丘	普通科	夜間部	30	9	10	7	4	30	36%	4
	普通科	夜間部	40	22	7	12	8	49	31%	4
巨摩高校	普通科	夜間部	40	11	14	5	8	38	24%	4
山梨高校	普通科	夜間部	40	9	12	10	5	36	23%	4
都留高校	普通科	夜間部	40	6	6	6	4	22	37%	4
谷村工業	機械科	夜間部	40	14	8	6	12	40	25%	4
甲府工業	電気科	夜間部	40	8	3	8	7	26	16%	4
	建築科	夜間部	40	5	4	6	8	23	14%	4
合 計			590	285	231	185	155	856	36%	71

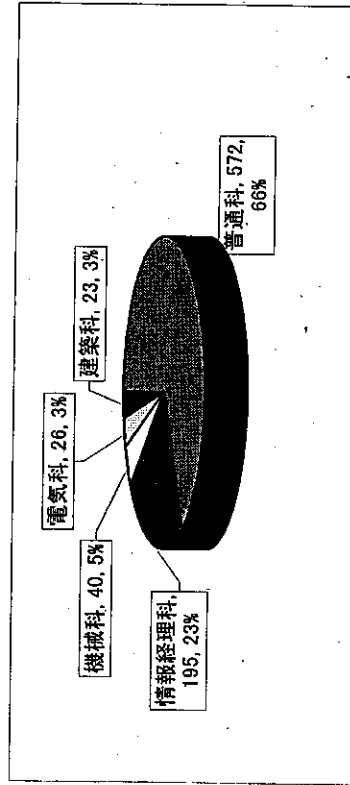
○昼夜別在籍生徒数

昼夜別	人数
昼間部	510
夜間部	346



○学科別在籍生徒数

学科	人数
普通科	572
情報経理科	195
機械科	40
電気科	26
建築科	23
合 計	856

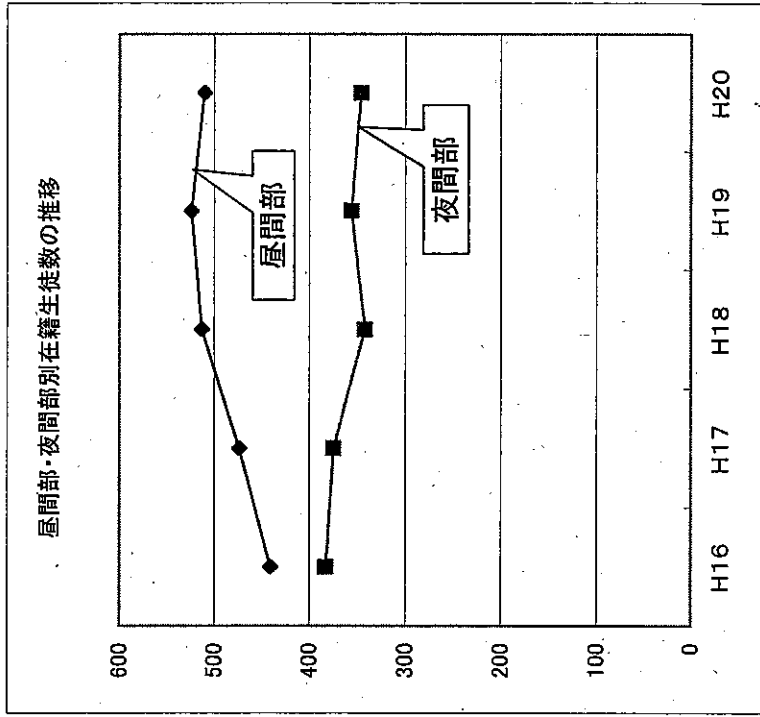


昼間部・夜間部別在籍生徒数の推移(H16ひばりが丘の設置以降)

(H20年5月1日現在:教育便覧)

学校名	学科	昼夜別	H16	H17	H18	H19	H20
中央	普通科	昼間部	155	163	162	177	173
	情報経理	昼間部	115	118	120	121	111
ひばりが丘	普通科	昼間部	30	46	71	58	57
	情報経理	昼間部	29	29	49	52	54
葦崎	普通科	昼間部	112	118	111	116	115
	昼間部合計		441	474	513	524	510
中央	普通科	夜間部	58	63	60	60	52
	情報経理	夜間部	21	25	25	35	30
ひばりが丘	普通科	夜間部	8	14	23	25	30
巨摩	夜間部	普通科	58	55	50	48	49
山梨	夜間部	普通科	40	36	24	31	38
都留	夜間部	普通科	35	33	31	37	36
谷村	夜間部	普通科	26	22	21	26	22
甲府工業	夜間部	機械	55	56	50	43	40
		電気	36	32	24	25	26
		建築	46	39	34	26	23
夜間部合計		383	375	342	356	346	

(H16ひばりが丘 高校設置) (H17ひばりが丘高 校2年目) (H18ひばりが丘高 校3年目)



○定時制卒業者の進路状況

(H20年5月1日現在:教育便覧)

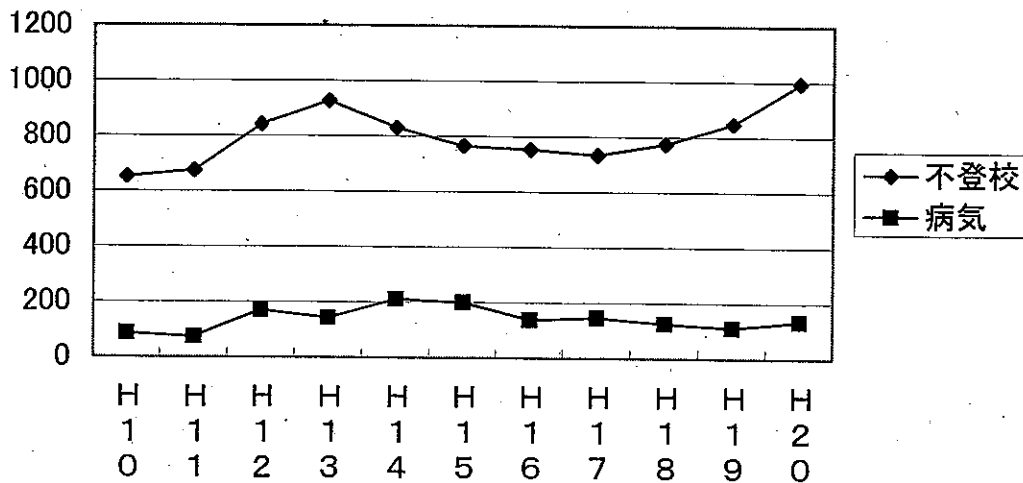
	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H20割合
大学進学	2	2	4	4	7	7	9	13	16	13	15	8.5%
短期大学	5	4	6	18	6	7	8	4	5	3	2	1.1%
通信教育部					2				1		1	0.6%
高等学校専攻科								1	1	1	4	2.3%
計	7	6	10	22	15	14	17	18	23	17	22	12.5%
専修学校	21	24	21	27	22	27	32	30	30	30	31	17.6%
各種学校	5		1	1	1	5		2		2	5	2.8%
公共職業能力開発施設等	2		1			1	3			3	2	1.1%
計	28	24	23	28	23	33	35	32	30	35	38	21.6%
就職者	52	59	62	53	38	36	41	40	65	64	62	35.2%
一時的な仕事に就いた者	28	27	39	45	43	56	12	14	15	15	22	12.5%
上記以外の者							43	33	32	21	32	18.2%
死亡・不詳												
卒業生総数	115	116	134	148	119	139	148	137	165	152	176	

○公立中学校における理由別長期欠席者数

(H20年5月1日現在:教育便覧)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H20割合
病気	87	74	171	143	212	200	138	147	126	112	135	11.7%
経済的理由	4	4	4	7	10	10	9	2	1	4	3	0.3%
不登校	652	674	842	927	830	765	754	734	774	848	995	86.5%
その他	13	25	53	16	32	34	19	17	26	32	17	1.5%
計	756	777	1,070	1,093	1,084	1,009	920	900	927	996	1,150	

不登校・病気年度別推移



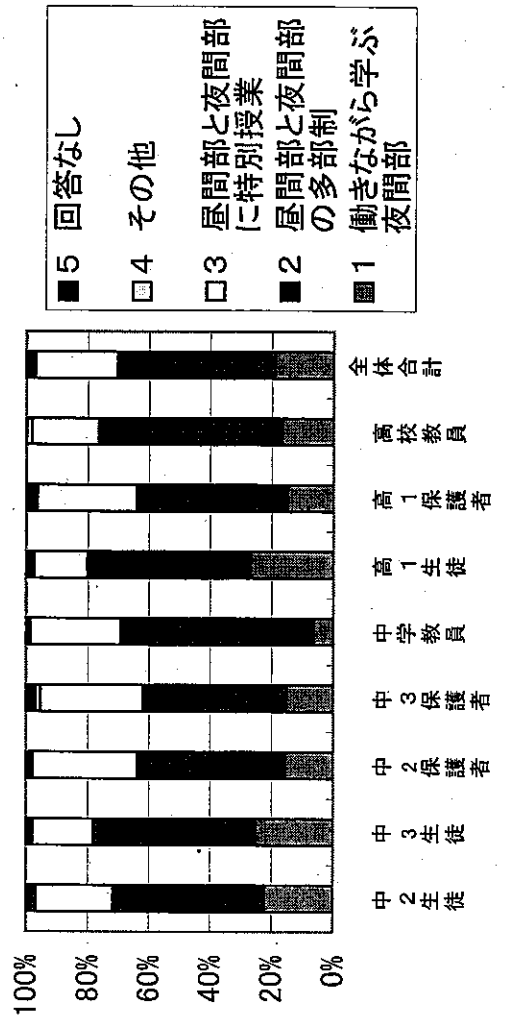
H19高校改革アンケート「定時制高校の役割」

問 中学卒業で就職する生徒が減少し、現在の定時制高校は、「働きながら学ぶ人のための学校」という役割だけでなく、さまざまな学習歴を持つ生徒の学習の場としての役割も持つようになってきています。あなたは、定時制高校の今後についてどう考えますか。(次の中から1つ選んで下さい。)

- 1 現状どおり、働きながら学ぶ人のため、夜間部を主に考える方がよい
- 2 多様な生徒が学習できるよう昼間部と夜間部をあわせ持つ多部制がよい。
- 3 多様な生徒が学習できるよう昼間部と夜間部にさらに特別授業をあわせもつ多部制がよい
- 4 その他

選択肢	中2生徒		中3生徒		中2保護者		中3保護者		中学教員		高1生徒		高1保護者		高校教員		全体合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 働きながら学ぶ夜間部	228	22.4%	256	25.1%	148	15.6%	150	15.4%	23	6.3%	230	27.0%	123	14.9%	73	16.9%	1231	19.1%
2 昼間部と夜間部	503	49.3%	541	53.0%	457	48.1%	452	46.3%	231	62.9%	453	53.1%	404	48.9%	258	59.6%	3,299	51.2%
3 昼間部と夜間部に特別授業	257	25.2%	202	19.8%	325	34.2%	328	33.6%	108	29.4%	148	17.4%	269	32.6%	94	21.7%	1,731	26.9%
4 その他	13	1.3%	8	0.8%	6	0.6%	15	1.5%	2	0.5%	6	0.7%	4	0.5%	7	1.6%	61	0.9%
5 回答なし	19	1.9%	13	1.3%	15	1.6%	31	3.2%	3	0.8%	16	1.9%	26	3.1%	1	0.2%	124	1.9%
合計	1,020		1,020		951		976		367		853		826		433		6,446	

定時制高校



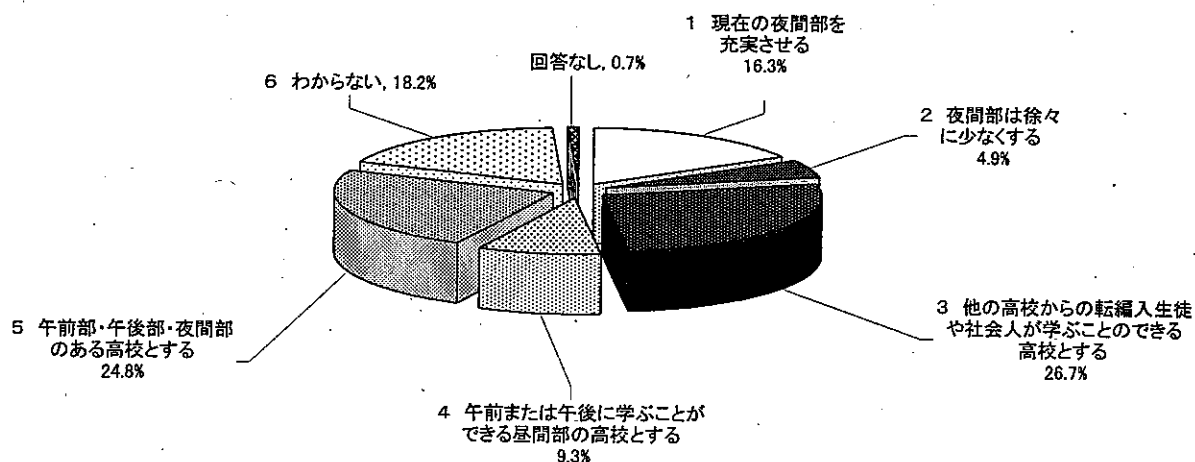
調査対象	
無作為抽出した中学校30校(2,3年生)、高校23校(1年生)の1学級の生徒全員とその保護者、及びその学校の全学年クラス担任。	
中学2年生	1,055人
中学3年生	1,059人
高校1年生	860人
保護者	2,974人
教員	804人
合計	6,752人

H20高校整備に関するアンケート「定時制高校の役割」

問 あなたは今後の定時制高校(原則四年制)にどのようなことを期待しますか。
(つぎの中から1つ選んでください。)

- 1 現在の夜間部を充実させる
- 2 夜間部は徐々に少なくする
- 3 他の高校からの転編入生徒や社会人が学ぶことのできる高校とする
- 4 午前または午後に学ぶことができる昼間部の高校とする
- 5 午前部・午後部・夜間部のある高校とする
- 6 わからない

選 択 肢	中3生徒		中3保護者		中学校教員		高2生徒		高2保護者		高校教員		合 計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 現在の夜間部を充実させる	237	17.0%	177	13.7%	27	10.5%	285	19.1%	236	17.1%	28	11.1%	990	16.3%
2 夜間部は徐々に少なくする	126	9.0%	38	2.9%	6	2.3%	76	5.1%	45	3.3%	9	3.6%	300	4.9%
3 他の高校からの転編入生徒や社会人が学ぶことのできる高校とする	189	13.6%	425	32.9%	73	28.5%	301	20.2%	503	36.4%	126	50.0%	1,617	26.7%
4 午前または午後に学ぶことができる昼間部の高校とする	167	12.0%	106		56	21.9%	98	6.6%	106	7.7%	30	11.9%	563	9.3%
5 午前部・午後部・夜間部のある高校とする	379	27.2%	340	26.4%	89	34.8%	295	19.8%	298	21.5%	45	17.9%	1,446	23.8%
6 わからない	286	20.5%	189	14.7%	5	2.0%	428	28.7%	187	13.5%	11	4.4%	1,106	18.2%
回答なし	9	0.6%	15	1.2%	0	0.0%	9	0.6%	8	0.6%	3	1.2%	44	0.7%
計	1,393		1,290		256		1,492		1,383		252		6,066	



三部制定時制の例

○定時制、午前部・午後部のしくみ

三部制

- ・自分の生活スタイルにあわせて学習する時間帯を選ぶことができます。
- ・所属する部のみ（1日4時間授業）で学ぶと、4年間で卒業することができます。
- ・所属する部以外の授業も受けると、3年間で卒業することも可能です。
- ・授業以外の時間を有効に使うことができます。

たとえば・・・

仕事（アルバイトを含む）
進路を目指して学習
生徒会活動・部活動
ボランティア活動

三部制のイメージ

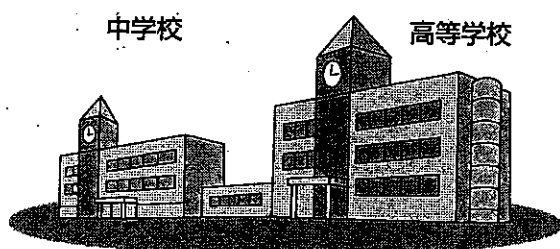
時 間 帯		午前部	午後部	夜間部
1時限	8:50～9:35	主な学習時 間帯		
2時限	9:45～10:30			
3時限	11:00～11:45			
4時限	11:55～12:40			
5時限	13:30～14:15		主な学習時 間帯	
6時限	14:25～15:10			
7時限	15:20～16:05			
8時限	16:15～17:00			
9時限	17:40～18:25			主な学習時 間帯
10時限	18:45～19:30			
11時限	19:35～20:20			
12時限	20:20～21:05			

中高一貫教育の制度

- 中高一貫教育は、これまでの中学校・高等学校に加えて、生徒や保護者が中高一貫教育をも選択できるようにすることにより、中等教育の一層の多様化を推進するもので、学校教育法等の改正により、平成11年4月から実施されています。
- 中高一貫教育は
 - 高校入試の影響を受けずに、6年間の安定した学校生活を送ることができます。
 - 6年間の計画的・継続的な教育指導を展開することができます。
 - 6年間にわたり生徒を把握することができ、個性を伸ばしたり、優れた才能が発見できます。
 - 学年の異なる生徒同士が共通の活動を通し、豊かな人間性や社会性を育成できます。

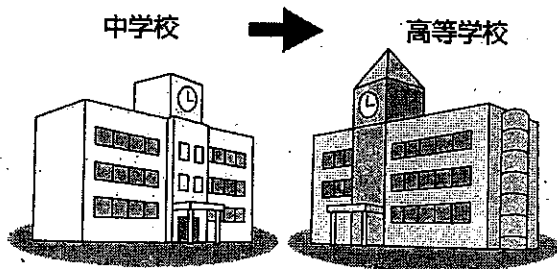
中高一貫教育の3つの形態

併設型の中学校・高等学校



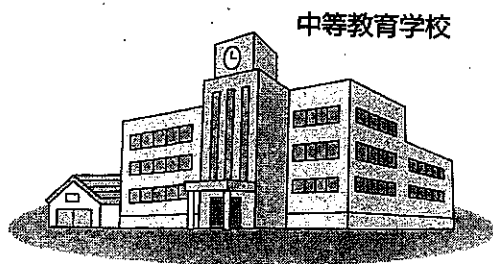
- 設置者が同じ中学校と高等学校が、6年間一体的に中高一貫教育を実施
- 併設型中学校への入学に際しては、学力検査によらない選抜を実施
- 併設型中学校から併設型高等学校への入学は無選抜
- 他の中学校から併設型高等学校への入学は選抜を実施

連携型の中学校・高等学校



- 市町村立中学校と都道府県立高等学校との間の連携を深める形で中高一貫教育を実施
- 連携型中学校には、地域の児童が就学指定で入学
- 連携型中学校から連携型高等学校への入学は、簡便な選抜を実施
- 他の中学校から連携型高等学校への入学は選抜を実施

中等教育学校

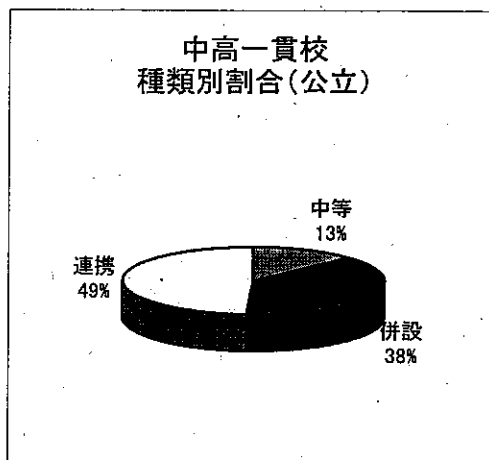


- 1つの学校として6年間一体的に中高一貫教育を実施
- 6年間の教育課程は、前期課程(3年)、後期課程(3年)に区分
- 中等教育学校への入学に際しては、学力検査によらない選抜を実施

全国の中高一貫教育校設置状況

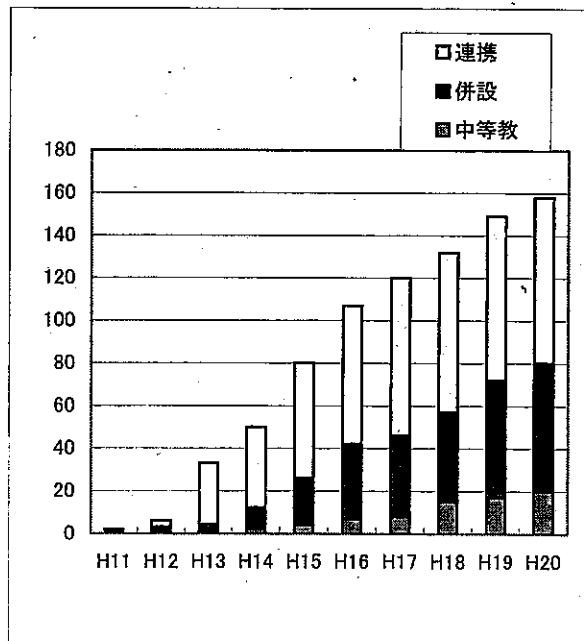
○全国設置状況(H20年4月文科省調査:公立)

都道府県	中等教育学校	併設型	連携型	合計	
北海道	1		9	10	* えりも町(連携型)
青森		1	2	3	
岩手			2	2	
宮城		1	1	2	
秋田		3		3	* 秋田市(併設型)
山形			2	2	
福島		1	4	5	
茨城	1		1	2	
栃木		2		2	
群馬	1		3	4	
埼玉		2	1	3	* さいたま市(併設型)
千葉		2	1	3	* 千葉市(併設型)
東京	4	3	6	13	* 千代田区(中等) * 北社市(併設型)
山梨		1		1	
神奈川				0	
新潟	6	1		7	
富山				0	
石川		1	2	3	
福井			4	4	
岐阜			2	2	
静岡		3	3	6	* 沼津市(併設型)
愛知			1	1	
三重			4	4	
滋賀		3		3	
京都		3		3	* 京都市(併設型)
大阪		1	1	2	* 大阪市(併設型)
兵庫	1	1		2	
奈良			1	1	
和歌山		5	3	8	* 国・公立(連携型)
鳥取				0	
島根			2	2	
岡山		3	1	4	* 岡山市(併設型)
広島		3	3	6	* 広島市(併設型)
山口	1	1	2	4	* 福山市(併設型)
徳島		2	2	4	
香川		2		2	
愛媛	3			3	
高知		3	3	6	
福岡	1	2		3	
佐賀		4	1	5	
長崎		2	3	5	
熊本			2	2	
大分		1	1	2	
宮崎	1	1		2	
鹿児島		1	2	3	* 鹿児島市(併設型)
沖縄		1	3	4	
合計	20	60	78	158	



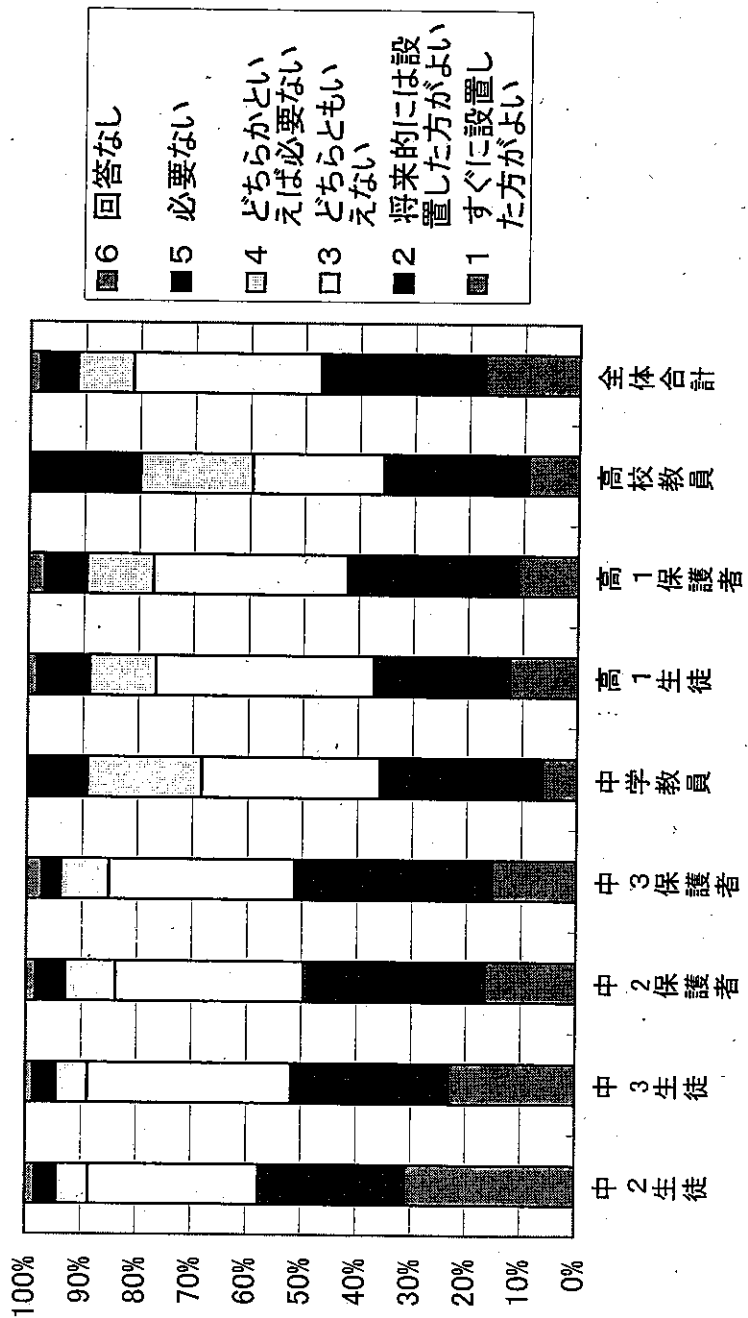
	中等	併設	連携	合計
公立	20	60	77	157
私立	13	158	1	172
国立	3	1		4
国(中)・公(高)			1	1
合計	36	219	79	334

中高一貫教育校数の推移(公立)



H19高校改革アンケート「中高一貫教育校」

選択肢	中2生徒		中3生徒		中2保護者		中3保護者		中学教員		高1生徒		高1保護者		高校教員		全体合計	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率	人数	比率
1 すぐに設置した方がよい	316	31.0	235	23.0	157	16.5	150	15.4	23	6.3	105	12.3	90	10.9	40	9.2	1,116	17.3
2 将来的には設置した方がよい	272	26.7	293	28.7	315	33.1	351	36.0	109	29.7	212	24.9	257	31.1	114	26.3	1,923	29.8
3 どちらともいえない	316	31.0	378	37.1	325	34.2	330	33.8	119	32.4	338	39.6	292	35.4	104	24.0	2,202	34.2
4 どちらかといえれば必要ない	59	5.8	58	5.7	86	9.0	85	8.7	76	20.7	103	12.1	100	12.1	88	20.3	655	10.2
5 必要ない	39	3.8	42	4.1	52	5.5	33	3.4	39	10.6	81	9.5	63	7.6	86	19.9	435	6.7
6 回答なし	18	1.8	14	1.4	16	1.7	27	2.8	1	0.3	14	1.6	24	2.9	1	0.2	115	1.8
合計	1,020		1,020		951		976		367		853		826		433		6,446	



調査対象
 無作為抽出した中学校30校(23年生)、高校23校(1年生)の1学級の生徒全員とその保護者、及びその学校の全学年クラス担任。
 中学2年生 1055人
 中学3年生 1059人
 高校1年生 860人
 保護者 2974人
 教員 804人
 合計 6752人

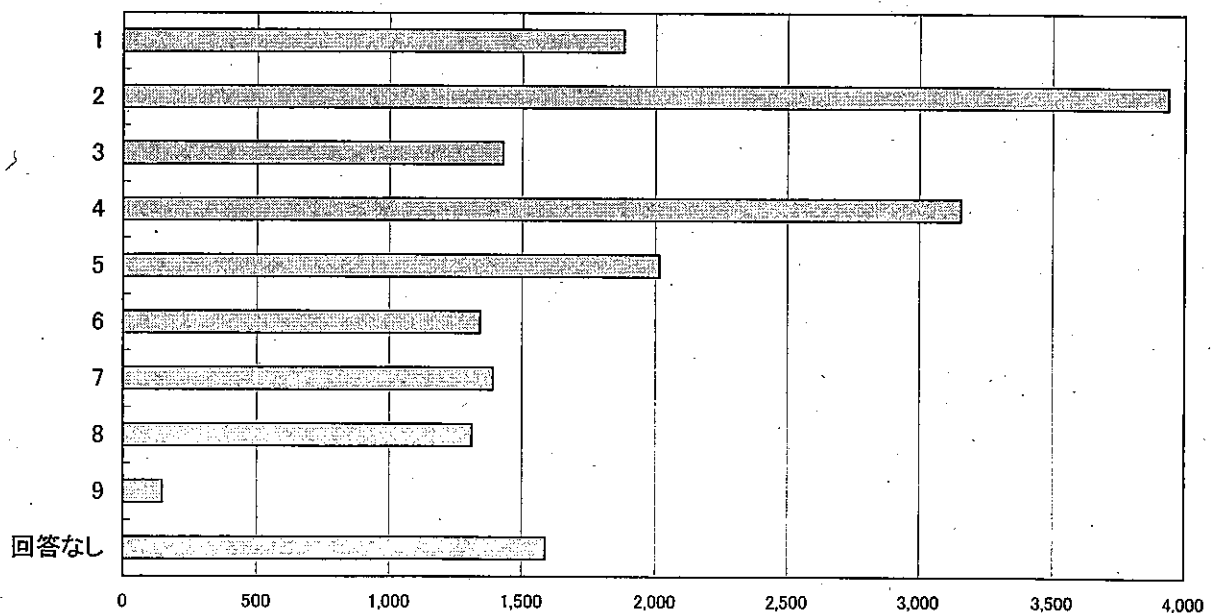
H20高校整備に関するアンケート「設置を希望する高校」

問 これまで総合学科高校や単位制などの整備を進めてきましたが、あなたはこれからどのような高校が必要だと思いますか。(つぎの中から3つまで選んでください。)

- 1 普通科目を中心に学ぶ普通科の高校
- 2 広く科目を選んで学習することができる普通科の高校
- 3 理数科、英語科などがある普通科の高校
- 4 普通科目や職業教育に関する科目を選んで学習することができる高校
- 5 農業、工業、商業などの専門的な知識と技術を学ぶことができる高校
- 6 不登校の生徒や中途退学者を受け入れてくれる高校
- 7 中学校までの学習内容を、もう一度わかりやすく学ぶことができる高校
- 8 中学校と高校の6年間を一貫して学ぶ高校
- 9 わからない

選 択 肢	中3生徒	中3保護者	中学教員	高2生徒	高2保護者	高校教員	合 計
	人数	人数	人数	人数	人数	人数	人数
1 普通科目を中心に学ぶ普通科の高校	604	275	71	516	314	99	1,879
2 広く科目を選んで学習することができる普通科の高校	860	886	157	973	926	136	3,938
3 理数科、英語科などがある普通科の高校	318	247	60	435	328	40	1,428
4 普通科目や職業教育に関する科目を選んで学習することができる高校	648	784	138	644	848	94	3,156
5 農業、工業、商業などの専門的な知識と技術を学ぶことができる高校	389	432	100	446	543	104	2,014
6 不登校の生徒や中途退学者を受け入れてくれる高校	262	267	102	360	286	66	1,343
7 中学校までの学習内容を、もう一度わかりやすく学ぶことができる高校	509	272	52	296	214	48	1,391
8 中学校と高校の6年間を一貫して学ぶ高校	283	363	48	216	326	77	1,313
9 わからない	51	15	1	64	14	2	147
回答なし	255	329	39	526	350	90	1,589
回 答 者 数	1,393	1,290	256	1,492	1,383	252	6,066

※複数回答あり



山梨県中高一貫教育研究会議提言（要旨）

平成12年2月16日

- 1 数々の利点を持つ中高一貫教育校を本県も設置することが望ましい。
 - ◇クリアーしていかなければならない問題点や課題
 - ・「受験エリート校」化しない。
 - ・受験競争の低年齢化を招かないようにする。
 - ・小学校段階での進路選択が困難な面がある。
 - ・通学の利便性に配慮する。
- 2 教育課程上からは中等教育学校が最も望ましいが、本県に設置する場合は、生徒減少期への対応や高校再編の高校改革の流れから、既存の県立高等学校に県立中学校を併置する併設型か、既存の県立高等学校と周辺地域の公立中学校数校との連携型から検討していくことが適当である。
- 3 比較検討すると、総合学科が最も望ましいが、大幅な選択や類型を設置した場合は、普通科でも十分対応できることから、総合学科又は普通科が適当である。
- 4 できるだけ多くの子供たちや保護者に中高一貫教育校を選択できる機会を提供するためには、地域バランス・設置場所・通学の利便性・ニーズ等を考慮し複数校設置することが望ましい。
- 5 学力検査は、実施すべきでない。それぞれの学校の特色に応じて、面接・作文・集団活動・抽選等の方法を組み合わせて入学者を決めるのが適当である。
- 6 本県の目指す中高一貫教育について
 - (1)「新しい時代を主体的・創造的に生きる」、「一人一人を生かす」という「山梨県教育ビジョン」の基本目標の実現を図ることのできる中高一貫教育校を設置すべきである。
 - (2) ボランティア活動や自然体験などの体験学習を重視するとともに、じっくり学びたい子供たちの希望に応える学校が望ましい。
 - (3) 不登校の生徒も受け入れることができる学校が望ましい。
 - (4) 全日制課程だけでなく、定時制課程への導入も望ましい。
 - (5) 一般の中学校への転編入及び他の高等学校への入学・転編入については、柔軟に取り扱うのが望ましい。
 - (6) 中高一貫教育推進校である韮崎市立韮崎東中学校及び県立韮崎高等学校の研究成果を十分に生かすことが望まれる。
 - (7) 設置に当たって、中高一貫教育の意義や特色を児童・生徒や保護者、教員をはじめ広く県民に理解してもらうことが大切である。

新しい高校づくり課題研究協議会 (H12.7)

(中高一貫教育に関する抜粋)

平成9年6月の第16期中央教育審議会答申の中で中高一貫教育の導入について提言されたのを受けて、本県における中高一貫教育の指針として、本年2月に「山梨県中高一貫教育研究会議」の提言が出された。

本協議会は、中高一貫教育を新しい高校づくりの一環として、この研究会議の提言を踏まえて今後の具体的な方向について議論した。

研究会議の提言では、中高一貫教育校を設置する際の問題点として、受験エリート校化しないこと、受験競争の低年齢化を招かないようにすることなどがあげられている。

本協議会でも、中高一貫教育は上記のような問題点はあるものの、6年間の一貫教育で生まれるゆとりを幅広く活用することにより、豊かな人間性の育成が可能となる制度であることから、本県においても積極的に進めるべきであるという意見が多く出された。

また、設置形態については、中等教育学校が理想であるが、現実的には併設型がよいという意見、定時制の中央高校に導入を検討すべきであるという意見などが出された。

- 中高一貫教育は、中高一貫教育研究会議の提言を踏まえ、推進に向けて具体的な検討を進める必要がある。

なお、中高一貫教育を含め、これからの高校づくりに当たっては、小中学校と高校がより一層連携して考えていくべきであるという意見があったので付記する。

中高一貫教育懇話会提言（要旨）

平成14年3月22日

1 中高一貫教育の必要性について

6年間の一貫した学びの中で、豊かな人間性や社会性、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をより効果的に育むことができる中高一貫教育の早期導入が必要である。

2 併設型中高一貫教育校の設置について

(1) 教育方針

「6年間の一貫した学びの中で、生徒一人一人の個性や想像力を伸ばすとともに、豊かな人間性や社会性を育成する。」という考え方を基本とする。

(2) 学校の特色（中高一貫教育校設置案）

① 併設型中学校

体験学習・外国語学習・IT学習等に重点をおいた学習を展開する。

教育課程編成上の特例を活用し、基礎基本の充実や生徒の興味・関心に応じた選択科目を開講する。

② 併設型高等学校

総合学科、単位制、多部制を基本とし、多様化した生徒のニーズに対応する。

(3) 入学者選抜方法

① 併設型中学校への入学

生徒の意欲や適性等を的確に把握するため、面接や作文、調査書、抽選等の方法を組み合わせるなど工夫する必要がある。

② 併設型高等学校への入学

学校教育法施行規則により、併設型中学校の生徒について入学者選抜は行わない。

併設型中学校以外の生徒を受け入れる場合は、学力検査、調査書、面接、作文、自己推薦書等を活用した複数の選抜方法を工夫する必要がある。

(4) 設置の具体化

中高一貫教育校設置案の具体化に当たっては、次のパターンが考えられる。

- ・ 定時制独立校の用地を拡大し設置するパターン
- ・ 定時制独立校の敷地内に設置するパターン
- ・ 既設の総合学科高校に設置するパターン
- ・ 既設の全日制普通科高校に設置するパターン

具体化する場合は、地域の実情や生徒・保護者のニーズ等を踏まえながら設置を推進する必要がある。

3 二校目以降の中高一貫教育校の設置について

二校目以降の中高一貫教育校の設置については、地域バランスなどを考慮する中で、積極的に推進すべきである。

第2次新しい高校づくり課題研究協議会 (H15. 7)

(中高一貫教育に関する抜粋)

中高一貫教育校の設置については、中等教育の複線化を図り、児童・生徒や保護者に選択の機会を提供するという意味合いからも、速やかな推進が望まれる。

また、生徒のより一層の個性の伸長を図るという観点から、中高一貫教育校の後期は、普通科や総合学科、学年制や単位制など様々な形態が考えられる。

1校日の中高一貫教育校については、『中高一貫教育懇話会』の提言に基づき、現在設置されている『中高一貫教育校設置庁内検討委員会』において検討が行われており、速やかな設置を期待するところであるが、2校日の設置に当たっては、今、検討が進められている新しい学習システムを取り入れるなど様々な角度からの検討が望まれる。

○2校日の中高一貫教育校の設置に当たっては、普通科のほか総合学科高校への導入など、様々な角度から検討する必要がある。